

# 令和3年度 事業報告

社会福祉法人 ウエルネス

今年度は年度途中で理事長の交代がありましたが、綿密な引継ぎのもとに、年間を通じて感染予防を念頭に置いた事業計画を実施しました。

当法人の職員には、使命感・責任感を自覚し、日常活動はもとより、家庭生活においても自律ある生活を送っていただきました。

施設内においては、介護施設のクラスターの発生予防、対応等のガイドラインに沿った対応を実施するため、安全対応体制を構築し、実施を推進しました。

令和4年3月に入り、見附市では過去最高の感染者拡大がみられ、職員の家族等にも感染の可能性が大きくなり、今後ますます対応策を強化する必要があります。

今年度、介護報酬が改定となりました。この改正は、この次の改正のための布石という意味合いが強く、これからの3年間は、改定要綱で示された1.感染症や災害への対応力強化。2.地域包括ケアシステムの推進。3.自立支援・重度化防止の取り組みの推進。4.介護人材の確保・介護現場の革新。5.制度の安定性・持続可能性の確保。を推進する体制づくりと、実際の運営を強化するための改善を継続します。

## 1.地域への貢献

今年度の地域活動は、コロナ感染の状況を見ながらとなりました。令和4年に入り新潟県内の感染拡大により、ますます活動も制限されています。

「うんどろ教室」 現在休止中。地域から再開を待ち望む声が聞こえます。

「オレンジカフェ」 感染防止に留意しながら毎月実施。平均10名程度。

「葛巻地区認知症フェア」 11月実施。その他地域からも出張講座は4回実施。

「通所運営推進会議」 感染拡大により書面にて報告。

「特別養護老人ホーム運営推進会議」 奇数月に開催予定が、情勢により現在中止。

## 2.健全経営と職員の処遇改善

今年度も、「介護職員処遇改善事業」「介護職員等特定処遇改善事業」を実施し、職員

の処遇改善に努めました。夏季賞与の際に短時間パート職員も含め、「コロナ対策もう一息頑張ろう手当」を支給しました。

「臨時処遇改善策」により、2月から介護職員を中心にベースアップを早めに査定し、支給を始めました。この改善策が10月以降も継続になれば、再度9月に見直しを図ります。

コロナ感染不明者の早期発見の補助具として「抗原検査キット」を常備し、令和4年2月以降は、2週に1回全職員が検査を実施しています。

健康診断は、法人全職員（短時間パートも含め）全額法人負担で7・8月に実施しました。夜勤職員は、春・冬の年2回行っています（春は実施済）。留意を指摘された職員には、受診・治療継続を勧めています。

令和4年度から企業主導型保育園「みつけの保育園」と連携し、福利厚生の一環として該当職員が安心して勤務できる環境を整えます。

8月下旬から新潟県内でもコロナ感染状況が悪化したので、休業補償保険（特養1日20万円×14日間、通所1日11万円）に加入し、不測の休業に備えました。

#### ① 特養

●「喀痰吸引実習」を修了し、喀痰吸引実施可能者が施設で10名となり、施設の看取り体制を強化します。病院研修は、コロナにより延期となっています。

●社内研修は、インターネットによる研修システムに加入し、年間研修計画のもとに月1回介護職員会議にて施設内研修を実施しました。これらの研修や介護会議を活用し、介護職員全体が各項目の介護の統一性を実施し、そのうえで個別介護が提供できる体制を強化しています。

●外国人介護人材の活用 ベトナム人技能実習生1名が入社予定ですが、日本の感染拡大が増大したため入国が延期になり、早くも5月連休明けの予定となりました。毎月オンラインで面談をし、意思疎通を図っています。

●短期・長期借入金の組み立てと修繕積立金 資金繰り健全運用のため、運転資金の余剰金で借入金の返済をしました。4月に日本政策金融公庫の22,496,377円と、大光銀行当座借越を4月に300万円、8月に300万円を返済しました。そのため、今期末の当期資金収支差額はマイナスとなりましたが、事業の収支差額は計画通り推移しており、この処置は融資枠に余裕を持ち、万が一施設内に感染者が発生して予期せぬ事態にも対応

できる体制を作るためと考えています。また、年度末には修繕積立金を計上しました。

●入院者を出さないために各職種がやるべきことを自覚し、実施していくことにより、稼働率 100%を目指し 2 カ月間達成しました。

●給食調理職員を(株)生活サポーターふるまいからの業務委託として労働力提供を受けることにしました。これは、今後の職員確保、労務負担を考慮して、より安定性が確保できるという見地からです。

## ② 通所介護

●常勤職員を 1 名採用しました。順調に業務をの習得しており、これにより各自の業務内容を見直し、より「そいがあ亭の魅力」を追求しています。コロナ禍で停滞気味の利用者様の精神的・身体的な活性化増進を目指します。

●自宅での日常生活との連携を強化した介護計画のもと、一体的なりハビリテーションと科学的介護に取り組んでいます。

## ③ 地域包括支援センター

●コロナ禍における新しい生活様式の中で、地域高齢者の精神的・身体的機能低下を支援することに苦慮しました。見附市でも感染がますます拡大していますので、状況を見ながら個人でもできる予防策を啓蒙し、機会を見て小規模なイベントの開催を検討して実施しました。

●現在の状況下では訪問してお顔を見て支援することが難しく、電話相談を中心にできることを心掛けています。

今期はコロナ感染対策には有形無形の多大なる影響を受けました。

不慮の事態にも対応できる組織の体力を強化するため、当法人の福祉活動を確実に実行して地域に貢献するとともに、売上の最大化、経費の最小化を目指し、資金運営を強化し、修繕積立を実行し、職員の処遇改善を実施し、ほぼ計画通り実行できました。